

是等は皆同一の方向に向ひ、次に述ぶるが如き理論を以てのみ、凡ての事實を説明するを得たり、其理論と云ふべきは、即ち生物の基原は共有のものにして、多くの時代を経る間に漸次變化して、終に今日の如き種々の生物を見るに至れること是なり、此等の事實は終に西曆千八百五十九年に於てチャールズ、ダーウイン氏其非凡の熟練を以て明決を與へたり、氏の唱へたる自然淘汰より生ずる進化説は頗る正當なる理論にして、有數の博物學者及び論理的思想家の一般に容るゝ所となれり。(未完)

(田中茂穂)

### 應用動物學

○窓硝子の代用に用ひられたる貝殻 厦門

及福州府にある古き建築物中には硝子の代用に用ひられたる多くの介殻を見る。何れも長さ三寸巾二寸位に切り巧みに之を覆瓦狀に組合せ一種の裝飾的に用ひられたるものなるべしと雖之を透す光線は室内に一種異様の明り

内外彙報

を生せしむれば特種の趣きあるべし。嘗て田中芳男翁は介殻利用の談に元と琉球の王宮は介殻を以て窓硝子の代用となしありし由語られしかば今回福州古刹破壊の際に得たる標品を贈りしに左の記載を寄せられたり。

明瓦は清俗名なり透明なる瓦の義ならん海鏡殼の周邊を切り去り方形又長方形となすものを以て窓を張るに用ふ。猶歐洲の北部に於て往昔は雲母板を用ひしと同なるも今は硝子板が世に出でたれば皆廢棄せられたり。海鏡は支那海に産する蛤類にして其殼扁平圓形半透明をなす。學者 Chinese window shell (*Placuna placenta*) 和名「かどみがい」又「まどがい」「いたがい」「唐の鏡」等の名あり我が月日介に近きものなりと琉球福州厦門等に多く用ひられたるを見れば多く南支那海に産するものたるべく介殻の歴史的利用を知るの一助ともなるべし。(小畑勇吉)

### 寄生動物學

○後生動物寄生の宿主に及ぼす影響(承前)